

福祉にいがた

Fukushi Niigata

CONTENTS

巻頭特集

年頭のごあいさつ（2・3面）

- ・新潟県社会福祉協議会長
- ・新潟県共同募金会長
- ・新潟県知事

- 「生きる」ーがん患者が発信「諦めないで」
- 「福祉フェア」新潟、大規模会場で盛況に
- ユニゾンプラザ2階の図書館に新書61冊

1月号
2023
第845号

絵「内部」
作家・佐藤葉月（妙高市）



<作者一言> 私の内部は弱々しいです



社会福祉
法人

新潟県社会福祉協議会

<https://www.fukushiniigata.or.jp/>

年頭のごあいさつ



社会福祉法人
新潟県社会福祉協議会
会 長
竹 内 希 六

令和5年の年頭に当たり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。皆様からは、日頃より社会福祉の推進に、温かいご理解とご支援を賜り厚くお礼を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症は、まだ収束が見通せない状況で、福祉の現場では依然として感染対策へのご努力が続けられていると存じます。当協議会におきましても、感染防止に十分配慮して各種研修会やイベントなどを開催したほか、新型コロナウイルス感染症によって経済的に困窮した方へ、市町村社会福祉協議会との連携により貸し付けを行いました。

また、昨年8月3日からの大雨による災害で被災された方には心からお見舞い申し上げます。村上市社会福祉協議会及び関川村社会福祉協議会が設置する災害ボランティアセンターに1カ月強にわたり、県内市町

村社会福祉協議会の皆様のご理解とご協力のもと職員派遣を行いました。近年の人口減少下における少子・高齢化の急速な進行や核家族化、さらには今般の新型コロナウイルスの影響などにより、社会的孤立や経済的困窮をはじめとする様々な福祉課題・生活課題が顕在化してきており、地域福祉活動の拡充や強化はより一層、大きな課題となります。

当協議会といたしましても、「共に生き、共につくる福祉社会を目指して」の基本理念のもと、地域共生社会実現に向けた基盤構築や権利擁護の推進、福祉人材の確保・育成などの事業において皆様と連携・協働して、引き続き尽力してまいります。私どもの取り組みへの一層のご理解、ご協力をお願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。



社会福祉法人
新潟県共同募金会
会 長
佐 藤 明

謹んで年頭のごあいさつを申し上げます。

昭和22年に国民たすけあい運動として始まった共同募金運動も76回目を迎え、昨年度までに寄せられた寄付金の累計は262億円余りとなりました。

これもひとえに皆様方からの温かいご支援・ご協力の賜物であり、改めて心より感謝申し上げます。

令和4年度は募金目標額を4億7935万円と定め、その達成に向けて懸命に取り組んでいます。

皆様方からお寄せいただいた寄付金は県内の様々な民間福祉活動やボランティア活動、さらには災害ボランティアへの支援などに活用させていただきます。

特に、新型コロナウイルス感染症の影響で、経済的に困窮する人や社会的に孤立する人の増加・固定化が

大きな課題となっていることから、ひとり親家庭を中心とした困窮世帯への食料支援やメンタルケア活動への支援、子どもの居場所づくり支援などを引き続き重点的に行います。

また1月からは、障害者支援や貧困対応、自殺防止運動など特定のテーマに絞って、助成を受ける団体が積極的に募金活動に参加する「いがた・新テーマ型募金」と、高齢者世帯などの除雪を支援する「あつたか雪募金」も始まりました。

新潟県共同募金会は、これからも県内の地域福祉活動を支援するため、更なる努力を続けてまいります。

赤い羽根共同募金運動に今後とも、なお一層のご支援とご協力を賜りますよう、お願い申し上げますとともに、皆様のご健勝とご多幸をお祈りいたしまして、新年のごあいさついたします。



新潟県知事
花角英世

令和5年の年頭に当たり、謹んで新春のごあいさつを申し上げます。

昨年5月、県民の皆様から再び信任をいただき、2期目の県政運営に取り組んでおります。県民の皆様の安全と安心を確保することを第一に、経済社会に活力のある新潟県、子育てに優しい暮らしやすい新潟県を目指し「住んでよし、訪れてよしの新潟県」の実現へ、最大限の取り組みを進めてまいりたいと思えます。そして何よりも、人口減少という深刻な課題を抱える新潟県にとって、若い世代を中心に、働く場、起業・創業など挑戦の場、人々が訪れる場として新潟県が「選ばれる」よう取り組んでまいります。

近年の地域社会を取り巻く状況を見ますと、少子・高齢化の進行、地域のつながりの希薄化による社会的

孤立など、福祉分野における課題の多様化や複合化に加え、長引く新型コロナウイルス感染症の住民生活への影響等、地域福祉の環境は大きく変化し、地域に根ざした福祉活動はますます重要性を増しております。

県といたしましては、市町村や地域の団体等関係機関と連携し、世代や属性を問わず地域において課題を包括的に受け止める相談支援や、本人や世帯の状況に合わせた地域への参加支援等による包括的な支援体制の構築など、地域共生社会の実現に向けた取り組みをより着実に進めてまいりたいと考えております。今後とも皆様の一層のご理解とご支援、ご協力をお願い申し上げます。

本年の皆様の益々のご発展とご健勝をお祈り申し上げ、新年のごあいさついたします。

謹賀新年

(一財)新潟県民生委員児童委員協議会

会長 本多 満理子

(二財)新潟県老人クラブ連合会

会長 富沢 哲

(二社)新潟県母子寡婦福祉連合会

会長 小林 和代

(二社)新潟県手をつなぐ育成会

理事長 皆川 栄子

(一社)新潟県老人福祉施設協議会

会長 山田 淳子

新潟県ホームヘルパー協議会

会長 岩崎 典子

新潟県保育連盟

理事長 平澤 正人

新潟県私立保育園・認定こども園連盟

会長 伊東 一男

新潟県保育士会

会長 山田 文子

新潟県社会福祉法人経営者協議会

会長 平澤 正人

(公社)新潟県社会福祉士会

会長 渡辺 陽一

(公社)新潟県介護福祉士会

会長 大井 秀行

新潟県内社協職員連絡会

会長 川瀬 聖志

新潟県社会就労センター連絡協議会

会長 寺口 能弘

(一社)新潟県介護支援専門員協会

会長 佐々木 勝則

新潟県災害福祉広域ネットワーク協議会

会長 竹内 希六

(新潟ユニゾンプラザ入居福祉団体)



にぎやか
多彩
広がる笑顔

3年ぶりの大規模会場で開かれた「福祉・介護・健康フェア2022 in 新潟」。開場前から行列が屋外まで延びました。開場後も途切れることなく人、人、人。多彩に展開された出展コーナーやブースなど、どこも来場者でにぎわいました。

ユーモアあふれる講演に大笑い、健康

に役立つ話に納得顔、農福マルシェで旬の野菜を買ってニッコリ、卵の詰め放題に成功しニンマリ、子ども体力測定でガッツポーズ、飲食スペースで選手権参加のカレーに舌鼓…。人の数だけいろいろな表情が広がったフェア会場を写真で紹介します。



大入りとなり、立ち見客が相次いだステージイベント

人気だった「卵の詰め放題」。卵をカゴにできるだけ詰めて全部をゲット～！



子ども体力測定
25分走タイム測定
に挑むチビっ子



「空飛ぶ車いす」は中古品を修理してアジア途上国へ送る



大人気のガラポン抽選会で掲示された最後尾を示すプラカード

飲食スペースは静かに「黙食」!



旬の野菜を並べた農福マルシェの店

見て聞いて触れて 納得満足



加藤俊徳さん



大胡田誠さん



今年も軽妙トーク

ジョーク交じりのトークで笑わせた遠藤さん(左)。越乃さん(右)は伸びやかな歌声で2曲を披露した

今年のステージイベントは事前申し込み不要で、登壇者の人気もあってか、150席が埋まり、立ち見も

出た。遠藤麻理さんと越乃リユウさんのトークショーは今年も軽妙な掛け合いとジョークが光りました。

出る盛況ぶりでした。

遠藤麻理さんと越乃リユウさんのトークショーは今年も軽妙な掛け合いとジョークが光りました。

遠藤さんに「思い出に残る団員は？」と尋ねられ、越乃さんは「今や大女優の壇内さん。冗談を言った

り、ふざけたりしても、何をしても、いつもきれいな人だった」と宝塚時代の思い出話を披露しました。

一方、全盲の弁護士大胡田誠さんは先天性緑内障が成長とともに悪化して全盲になり、苦勞の末、5回目の挑戦で司法試験に合格し

た思い出を話しました。その上で「心はどこにある？ 相手を思ったとき、自分と相手の間に生じる心の作用だ」との考えを紹介。「相手を思うほど、新しい心が生まれ、心が豊かになる」と述べました。

さらに、新潟日報で「脳番地日記」を連載中の医師で脳科学者、加藤俊徳さん(長岡市出身)は子ども時代の故郷の思い出を紹介しながら「認知症を食い止める10の実践」を解説。

「頭は使うほどに良くなる」「1日1時間歩けばやる気が出る」「7時間以上寝て昼間の眠気をなくし正しい脳内リズムを作る」「新しいことに挑戦する」「朝から元気で明るく」などに取り組みよう提案しました。

「相手思えば心豊かに」 全盲弁護士 大胡田さん

脳科学者
加藤さん

「7時間寝て脳内リズム」

地域共生社会を探るイベント「福祉・介護・健康フェア2022 in 新潟」が11月26日、新潟市産業振興センターで開かれました。感染禍で規模縮小していたイベントは今年、3年ぶりに「フェア」に復帰。新潟は大規模会場での開催となり、来場者は4千人に達しました。ステージは、3年連続となった、フリーアナウンサー遠藤

麻理さんと元宝塚歌劇団の越乃リユウさんとのトークショーが今年も爆笑の連続。全盲の弁護士や長岡市出身の脳科学者の講演も学びが多く、会場はうなずく姿であふれたほか、農福マルシェや飲食ブース、大抽選会など、多くのコーナーも大にぎわい。県内3会場で相次ぎ開いてきた今年のフェアを締めくくりました。



赤い羽根 情報

県知事賞に 菊池諒さん

小中生たすけあい作文

新潟県共同募金会が主催する「第70回たすけあい作文コンクール」の表彰式が11月19日、新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで行われました。

令和4年度は県内の37小・中学校から164点の応募があり、入賞6点と佳作20点が選ばれました。

式では、受賞者を代表して、佐渡市の河崎小学校5年生菊池諒さんが「誰かの助けになれる優しくて強い人になりたい」とあいさつしました。

なお、入賞作文は県共同募金



表彰式で記念撮影する「たすけあい作文コンクール」入賞者ら

会のホームページからご覧いただけます。

入賞者は次の通り。

▽県知事賞 菊池諒さん（佐渡市立河崎小学校5年）▽県教育委員会教育長賞 関原暖さん（糸魚川市立糸魚川小学校3年）▽新潟日報社長賞 藤田柚さん

（妙高市立新井中学校3年）▽NHK新潟放送局長賞 板垣陽菜さん（新潟大学附属新潟中学校3年）▽県社会福祉協議会長賞 高橋碧生さん（新潟県立直江津中等教育学校2年）▽県共同募金会長賞 水澤諒介さん（上越市立八千浦小学校2年）

にいがた・新テーマ型募金	団体名	主な活動内容	目標額
参加団体と募金目標額	はまっこ子ども食堂運営委員会（新潟市北区）	こども食堂の運営	300,000
	NPO法人OHANA（新潟市東区）	不登校や引きこもりなど問題を抱える人への支援	1,500,000
	新潟いのちの電話（新潟市中央区）	自殺防止運動の展開	500,000
	新潟NPO協会（新潟市中央区）	NPOへの支援	100,000
	教員サポートSmileういんず（新潟市西区）	支援を必要とする子どもたちなどのクラスサポート	850,000
	UNE（長岡市）	農福連携などを通じた障害者支援	800,000
	上越地区手をつなぐ育成会（上越市）	障害者への支援	100,000
	かみえちご山里ファン倶楽部（上越市）	地域の交流事業など	720,000
	地域たすけあいネットワーク（三条市）	障害・高齢福祉事業、こども食堂、コミュニティカフェなど	4,200,000
	新潟県フードバンク連絡協議会（三条市）	フードバンク活動及びひとり親家庭などへの食支援	2,000,000
	フードバンクにいがた（三条市）	フードバンク活動	1,500,000
	フードバンクしばた（新発田市）	子どものいる貧困家庭への包括的支援	3,000,000
	NPOかも小町（加茂市）	認知症カフェの運営、フレイル予防の支援	1,000,000
	フォルトネット（十日町市）	不登校や引きこもりなど問題を抱える人などへの支援	200,000
	みつけ・ふれあい食堂（見附市）	こども食堂の運営	200,000
	フードバンクみつけ（見附市）	ひとり親家庭などへの食支援	500,000
	フードバンクさんぽく（村上市）	生活困窮者などへの食料などの支援	300,000
	ピーカブー（五泉市）	子育て支援、フードバンク活動、ゲートキーパー活動	300,000
	胎内市フードバンク協議会（胎内市）	ひとり親世帯への食料支援など	500,000
	ミンナの子カラ（胎内市）	引きこもり当事者とその家族の居場所の運営など	100,000
計20団体<かつこ内は法人・団体の本部の所在地>			18,670,000

今年も実施 20団体の活動選んで応援!! テーマ型募金

応援したい福祉団体に募金する「にいがた・新テーマ型募金」が今年も1月1日から3月31日まで行われています。

この募金は福祉に関わる団体が力を入れるテーマと目標額を示して寄付を募集します。そのテーマに賛同した個人や企業が県共同募金会を通じて寄付する仕組みです。

今回は20団体が参加、募金合計1867万円の目標を掲げています。表参照!!。

皆様のご協力をよろしくお願い申し上げます。

なお、団体の活動内容の詳細等については新潟県共同募金会のホームページでも紹介しています。



赤い羽根 情報



車両の前で記念撮影する県遊技業協同組合の佐藤理事長(右端)と、贈呈を受けた福祉施設関係者ら

2福祉施設に車輛 今年もありがとう

県遊技協組の寄付金原資に

新潟県遊技業協同組合からの寄付を原資にして、県共同募金会が福祉施設へ利用を送迎車両などを贈る「障害者支援施設車両助成交付式」が12月19日、新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで行われました。写真Ⅱ。

贈られたのはマイクロバスタイプの大型車両と、ワンボックスタイプの乗用車です。式では、県共同募金会の佐藤明会長が「今年も県遊技業協同組合から多額の寄付を頂いた。車両の有効活用を」とあいさつ。県遊技業協組の佐藤孔^{よしかず}一理事長は「地域社会への貢献を目指しており、車両を末永く使ってほしい」と述べました。

贈呈されたNPO法人青りんごの会(新潟市北区)の中村勉理事長と、社会福祉法人すこやか福祉会障害者支援施設かたくりの里(新潟市西蒲区)の増田稔施設長は「地域の皆様へ恩返しできるよう努める」「地域の人々が施設をもっと利用するきっかけにしたい」とお礼を述べました。

新潟ユニゾンプラザ 情報

主な設備の紹介



自動追尾機能付き
Webカメラ

AIで人物を認識し、自動的に追尾します。また、あらかじめ登録した位置にボタン一つでカメラを動かすことが可能。

Web会議中、発言頻度の高い参加者が映る位置を登録しておけば、カメラを動かしても、ワンタッチで元の映像に戻すことができます。

大人数が来場する催事の際など、来場者の体温を瞬時に確認することが可能。個別検温の手間を省くことができます。
※多目的ホールでの使用を優先いたします。

サーマルカメラ



サーモカメラによる
検温実施中

貸ホール・貸会議室は 新潟ユニゾンプラザへ

多目的ホール、大会議室、大・中・小研修室など用途や規模にあわせてご利用いただけます。
無料の専用駐車場(220台)を完備しております。

◆貸室の利用申込方法

ユニゾンプラザホームページよりお申し込みください。貸室の予約状況も公開しています。
URL : <https://www.unisonplaza.jp/>

インターネットサービス



多目的ホール及び4、5階の各会議室でインターネットを利用できる環境を整備しました。

インターネットの使用料は無料。

無線LANルーター、有線LANも無料で貸出を行っています(数に限りがあります)。

ー多目的ホール、各種会議室、福祉の店パレット、図書館は新型コロナウイルス感染対策を励行していますー

日本国内でのボランティア活動中のケガや賠償責任を補償

ボランティア活動保険



保険金額・年間保険料（1名あたり） 団体割引20%適用済／過去の損害率による割増引適用

プラン		基本プラン	天災・地震補償プラン	【新設】特定感染症重点プラン
保険金の種類				
ケガの補償	死亡保険金		1,040万円	
	後遺障害保険金		1,040万円(限度額)	
	入院保険金日額		6,500円	
	手術保険金	入院中の手術	65,000円	
		外来の手術	32,500円	
	通院保険金日額		4,000円	
	特定感染症		補償開始日から10日以内は補償対象外(*)	初日から補償
賠償責任の補償	地震・噴火・津波による死傷		×	○
	賠償責任保険金 (対人・対物共通)		5億円(限度額)	
年間保険料		350円	500円	550円

商品パンフレットは
コチラ(ふくしの保険)
ホームページ

*4月1日付で前年度から継続して契約される場合は初日から補償します。

<基本プランに加入される方へ>

基本プランでは、地震・噴火・津波に起因する死傷は補償されません。

◆年度途中でボランティア活動保険に加入する場合には「特定感染症重点プラン」への加入をおすすめします。

例えば、被災地での災害ボランティア活動や当初予定していなかったボランティア活動への参加にあたり、新型コロナウイルス感染症をはじめとした特定感染症への備えとして、特定感染症重点プランに加入いただきますと、より安心してボランティア活動に参加いただけます。

ボランティア行事用保険 (傷害保険、国内旅行傷害保険特約付傷害保険、賠償責任保険)

送迎サービス補償 (傷害保険)

福祉サービス総合補償
(傷害保険、賠償責任保険、約定履行費用保険(オプション))

● このご案内は概要を説明したものです。詳細は、「ボランティア活動保険パンフレット」にてご確認ください。●

団体契約者 社会福祉法人 全国社会福祉協議会

〈引受幹事〉 損害保険ジャパン株式会社 医療・福祉開発部 第二課

TEL:03(3349)5137

受付時間：平日の9:00～17:00(土日・祝日、年末年始を除きます。)

この保険は、全国社会福祉協議会が損害保険会社と一括して締結する団体契約です。

取扱代理店 株式会社 福祉保険サービス

〒100-0013 東京都千代田区霞が関3丁目3番2号 新霞が関ビル17F

TEL:03(3581)4667

受付時間：平日の9:30～17:30(土日・祝日、年末年始を除きます。)

ユニゾンの図書館

新たに61冊仲間入り

新潟ユニゾンプラザ（新潟市中央区上所2）2階の図書情報ルーム（通称・ユニゾンの図書館）に新たな本61冊が入りました。一部を紹介します。

筆先鋭く箴言数々

旧年11月に白寿を迎えられた、直木賞作家の佐藤愛子さん。「九十歳。何がめでたい」「九十八歳。戦いやまず日は暮れず」「気がつけば、終着駅」などと、舌鋒ならぬ筆先鋭く、先生、ますますお元気な様子。

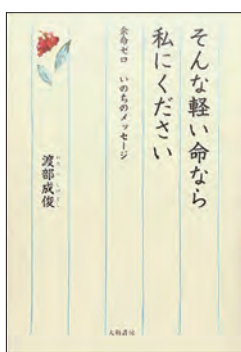
本書タイトルの「幸福とは何ぞや」は誰もが問えども、得心のいく答えとなると難しいが、先生の筆は小気味いい。



「生きるのも大変だけど、今は死ぬのも大変」「幸福とは何か？ いい時も悪い時も（中略）平然としていられること」などなど。物知りの女性と語らい合ったような読後感だ。ひざを打ちたくなる言葉に出合うこと、必至。

命と魂の叫び重く

「そんなに軽い命なら私にくださいー余命ゼロいのちのメッセージ」は臍臓がん手術の後、転移が見つかり、



1年半の余命宣告を受けた男性がつづった魂の叫びであり、命のメッセージだ。東京で洋服プレス工場を営んでいた著者の渡部成俊さん。余命宣告を受け、当

初は落ち込んだ。しかし、前向きな気持ちを取り戻し、命の大切さを伝えようと、地元の小中高で講演活動が続けたが、2008年1月、宣告から3年後に63歳で力尽きた。本書は亡くなる半年前の出版。「幸せはなるものでなく、感じるもの」「余命ゼロだつて幸せ」「残された短い時

間でも恩返しを」…。それぞれの言葉が重い。

疲れた人への一書

都内でクリニックを営む心療内科医、鈴木裕介氏の「我慢して生きるほど人生は長くない」。職場でも家



庭でも配慮ができるほど、歓迎され、人として評価されがちな社会に生きていると、時折、それが重荷と感じることも少なくない。本書は我慢せずに生きていくため「人間関係の作り方」から始め「疲れてしまった人への処方箋」「誰にも振り回されず自己肯定感を保つには」などの対処法をアドバイス。生きづらさを感じる人や疲れてしまった人へ、お薦めの一書か。

新着図書リスト（一部）

◆ 編集部おすすめ ◆	著者等
「インクルーシブな保育」導入のススメ	若月芳浩
実践！ 障がい者ケアマネジメント	東美奈子ほか
図解でわかる 障害福祉サービス	二本柳寛
気になる子どもが変わる16の鉄則	松浦直己
なぜ、認知症の人は家に帰りたがるのか	恩蔵絢子／永島徹
老いの正体	森村誠一
80歳の壁	和田秀樹
新・ちいさいひと11	夾竹桃ジン／水野光博
健康で文化的な最低限度の生活11	柏木ハルコ
スマホになじんでおりません	群ようこ
スクラップ・アンド・ビルド	羽田圭介
90歳になっても、楽しく生きる	樋口恵子
その介護離職、おまちなさい	樋口恵子
三千円の使い方	原田ひ香
長女たち	篠田節子
0.5ミリ	安藤桃子
還れぬ家	佐伯一麦
ああ面白かったと言って死にたい—99歳愛子の箴言集	佐藤愛子
九十八歳。戦いやまず日は暮れず	佐藤愛子
僕はいつも旅の途中	曽根直樹／水流源彦
発達障害グレーゾーン	岡田尊司
エンジョイ終活	菊田あや子
老いて今日も上機嫌	石川恭三
伴走型支援	奥田知志／原田正樹
地域を基盤としたソーシャルワーク	岩間伸之ほか
あそびから学びが生まれる動的環境デザイン	大豆生田啓友
認知症の人を元気にする言葉かけ・不安にさせる言葉かけ	尾渡順子
70歳の正解	和田秀樹
極上の孤独	下重暁子
いつでも母と—自宅でママを看取るまで	山口恵以子
さよならの儀式	宮部みゆき
認知症の母が劇的回復を遂げるまで	今陽子
東大教授、若年性アルツハイマーになる	若井克子

生きる

2人に1人が発症するという、がん。かつては「死の病」と恐れられたが、医学の進歩により、近年の治療成績は向上している。それでも、がんを発症したら、治療に伴う精神的、肉体的、経済的な負担は避けられない。5年半の間にがんを、転移を含めて3度発症し、ステージ4の谷藤幹枝さん（新潟市東区）は患者の視点から発信し続ける。「諦めないで」との思いを込めて…。

「ただ今より、告別式を執り行います」。

新潟県内の葬祭場で、女性のしめやかなアナウンスが響いた。スピーチ台に向かっていたのは黒いスーツ

ステージ4でも楽しく

姿の谷藤さん。司会やナレーターなどを請け負う株式会社JOVの社長で、ただ1人の社員でもある。

当然ながら、葬儀司会は予定を立てられない。「依頼があると、その会場へと動き回る日々です」

幼少から岐阜県で育ち、大学進学のため新潟市へ。教育学部で美術を学ぶ一方で、学外の劇団活動に打ち込んだ。卒業後は劇団のほか、声を生かした仕事をした。大

けた病院で、ステージ2の乳がんが診断され、3カ月後には左胸を切除した。「がんが父親が他界した後でもあり、身近に感じていた病気だった。自分もやはり、と受け止めた」

左胸にしこり、全摘手術 骨へ転移、再建あきらめ

谷藤 幹枝さん

(新潟市東区)



「GIST（ジスト）」

消化管間質腫瘍の英名の略称。胃や腸などの消化管壁の粘膜の下に腫瘤状の病変を形成するがんで、粘膜から発生する胃がんや大腸がんとは性質が異なる。

希少がんの1つで、発症率は10万人に1人か2人。

GISTは難治性ではないものの、多くの場合、早期は無症状で、腫瘍が大きくなると、出血や下血、貧血などの症状が現れる。

しかし、それらはGIST特有の症状ではないため、早期発見が難しいとされる。

学で学んだ絵心を生かしてデザイナーにも取り組んだ。新潟へ来て30年以上。「就職も結婚もしなかったけど居付いてしまった」今から7年ほど前、40代半ばのころ、身体の異変に気付いた。

「左胸にしこりがあるのが分かるようになった。でも、生理の影響かも、と思って、次の生理を待ってみよう。医療機関への受診が先延ばしになった」

そのうち、寝返りで胸に寝具が触れると痛みを感じるまでになった。検査を受

希少がん見つかり直腸も切除

手術の後の抗がん剤治療で髪が抜け、食を受け付けない副作用に苦しんだ。耐えて再発しなければ寛解だが、そうならなかった。

手術の1年余り後、骨への転移が判明した。腰椎や胸椎など、転移は計4カ所。遠隔転移が分かって、がんのステージは4になった。さらに、乳房再建はあきらめざるを得なかった。

（11ページへ続く）

(10ページから続く)

一方、がんの活性化には女性ホルモンが影響しているとみられ、その分泌を減らす薬を服用。併せて、子宮や卵巣を切除した。

その後、定期的にCT検査を受け続け、10万人に1人か2人の希少がん、GISTの腫瘍が直腸にできたのが見つかった。骨転移から3年後だった。

直腸のGIST発見から1年後に切除。人工肛門(ス

トーマ)になった。

乳がん告知から直腸手術まで5年半。病魔は容赦なかった。

「私だって泣きましたよ。

身体の一部がなくなるのはいやだった。でも、絶望しない。なぜって、治療は医者に任すしかない。それに、人間はすごいと思う。メスが次々と入った体でも、まだ生きていられる」

一方で、がんにもつわる世間の偏見や無知、無理解

に出くわし、心を痛めることも少なくなかった。

これまで、メディアの取材には積極的に応じ、がんの経験や思いを包み隠さず語ってきた。さらに、経験者の視点を踏まえた活動や発信も続けてきた。

その1つが乳がん患者向けに開発した、ガーゼ素材の下着だ。金具を使わず締め付けない仕様で、診察も受けやすいようにデザインした。

自身の病状 落ち着き 経験生かし 発信多彩

一昨年には「生死をあきらむる」と題した写真展を開催。乳がん手術の前と後、カメラマンが撮りためた自身の体の写真を展示した。生と死を問い掛ける内

患者に優しい下着開発 温泉楽しむ会など企画

容で、来場者から「生きる姿に励まされた」などの反響があった。

一方、乳がん経験者らが

気軽に温泉に入れるよう、温泉を借り切った「乙女温泉」や、医療用かつら使用者が集まるウィッグパーティーも企画した。

同じがん患者に寄り添う活動の一方で、自身のがん治療は今も続く。

「抗腫瘍薬を飲み続けている。幸いに

もがんは落ち着いてくれている」

がん体験者として発信する思いについて語る。

「私は今、楽しく生きようとしている。がんは人によつて様々だけど、ステージ4でも楽しく生きられる場合もある。だから、諦めることはない、と」

毅然とした表情で言い切った。

谷藤さん連絡先 URL

谷藤さんは「一了(いちりょう)プロジェクト」の名称で、乳がんに関して様々な活動。

「一了プロジェクトのホームページ」<https://ichi-ryo.jov.me>

「メール」jov@jov.me

「電話」株式会社JOV

0255(201)9236

装着し、たまったらトイレに流す。造設後は従来どおりの日常生活のほか、スポーツや旅行などもできる。

ストーマを装着したオストメイトが外出した際に使うのが「オストメイト対応トイレ」。

主に、車いすで入れるトイレ

内に、通常便器とは別に設けられている。専用排水台は、かがまなくても作業できる高さがあり、水道やトイレレットペーパーなどを備える。

対応トイレは大勢が出入りする施設で見掛けるが、いまだ設けられていない施設もある。



葬祭場で葬儀の司会を務める谷藤幹枝さん(協力:田上町の木村会館)



録音スタジオのマイクの前で(協力:新潟市中央区の株式会社Creative LAB)

福祉16団体へ計286万円

県生保協会職員に浄財募り寄贈

県内の生命保険22社でつくる生命保険協会新潟県協会（会長・小川忍・明治安田生命新潟支社長）は11月14日、県内16のボランティア団体・グループに総額286万円の備品などを贈呈しました。

寄付・寄贈を受けた16団体は県社会福祉協議会をはじめ、三条市社会福祉協議会、新潟市こども創造センター、県はまぐみ小児療育センター、県中央福祉相談センターなどのほか、ボラ

ンティア関係は食堂や塾など、8つのグループ・団体です。

新潟市中央区の新潟ユニゾンプラザで行われた贈呈式では、小川会長が「職員約5500人に募金を呼び掛け、安心安全な新潟県のまちづくりへ向け寄付寄贈を続けている」とあいさつ。より有益な寄付となるよう、今年は県の担当課に相談の上、知能検査器具や障害児用いすを寄贈品として選んだことを紹介。各団体やグループの代表らに目録を手渡しました。

この後、各団体の代表はそれぞれの活動を紹介。

このうち、新潟大学工学部の教員OBグループ「新潟大学 工作戦隊ハグルマン」は、子どもたちの理系離れに歯止めを掛けようと、物作りの出前授業を続けてきました。今回、工作

用モーター購入費用を寄付され「子どもたちの笑顔を見るため活動を続けたい」と述べました。

ほかの団体なども寄贈や寄付に「本当にありがたい」とお礼を述べました。



三条市社協へは福祉巡回車を寄贈

三条市社協に軽車両

寄贈には今年も軽の「福祉車両」が含まれ、今回は三条市社会福祉協議会へ贈呈。ユニゾンプラザ入り口前で小川会長が、近藤晴美・三条市社協常務理事・事務局長へゴールデンキーを手渡しました。

福祉の店 パレット情報

パレット新潟店営業日

2023年 1月							2023年 2月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28				

営業時間 11:30～16:30 □ …は休業日



編集後記

当月号「生きる」にご登場いただいた谷藤幹枝さん。がん治療中の気持ちとして「生きづらさ」を挙げた。人工肛門のオストメイトとなり、外出中は「対応トイレ」の有無が気に掛かる。「民間の某大手スーパー」は完璧なのに、公的施設でも備えていない所がある。設備がないと、その必要性が理解されていないようで、寂しさや生きづらさを感じたのか。

オストメイト対応トイレには、ヒトの腹部に「十」をデザインしたようなマークが掲示されている。マークがあるか、周囲の施設で探してみたい。優しい社会を目指すためにはまず現状を知り、困る人たちに思いを寄せることも有益だろう。

新年は卯年。優しい社会へ、干支のようにピョンと跳ぶ1年であってほしい。(佐)



この機関誌は、
赤い羽根共同募金の
助成を受け発行しています。



発行所／社会福祉法人 新潟県社会福祉協議会
新潟市中央区上所2-2-2ユニゾンプラザ
☎ 025-281-5584
発行人／関原 貢
定 価／5 円（会員の購読料は会費に含む）

福祉にいがた
令和5年1月1日発行（毎月1日発行）
印刷／島津印刷㈱

ご意見・感想
お寄せください
◆TEL 0950-85575 新潟市中央区上所2-2-2
◆ユニゾンプラザ3階 新潟県社会福祉協議会企画広報課
◆FAX 025-281-5580
◆Eメール kakaku@fukushiniga.or.jp